

近年の経営様式と当社への適用

- 1 ESG : 中長期的に持続可能な経営上の3つの重要要素から経営を判断、対策、投資（従来の財務関連に追加）
環境（Environment）：地球環境の悪化、気候変動、災害等への対応（資源の節約、脱酸素、災害対策）
社会（Social）：少子高齢化、景気低迷、働き方改革、多様性社会への対策（コミュニティ、働きやすさ）
企業統治（Governance）：会社不祥事、労使紛争、クレーム等の防止（コンプライアンス、信頼性）
大手企業では定着しつつあるが、中小は普及中（事業継続の鍵） 経営指針、評価等に有効
- 2 SDG s : 経済、社会、環境の重要課題(持続可能：Sustainable)についての具体的開発(Development)目標(Goals)を掲載
社会、環境をテーマにしたブランド化、経済分野でのビジネス化（共存共栄）
大手企業はESGと連動して持続可能な目標設定に活用、中小は地元貢献がメイン
知名度が高く、対外ブランド化に高い効果（さいたま市（先年度2年連続全国1位）のパートナーズ加入済、
広報に利用） 警備システムの災害時活用：SDG s 目標9,11,13,17に相当
- 3 CSR : 企業(Corporate)の社会的(Social)責任(Responsibility)とし、イメージアップの傾向が強く本業以外では利益につながらないケースも
当社ホームページ会社方針（①社会貢献、②差別化、③スキル向上）との整合性、本業関連への集中に留意
- 4 CSV : 共通(Shared)価値(Value)の創造(Creating)とし、社会と経済（営利）ニーズを求めることから企業による
公共の問題・課題解決（官需ビジネス）に適合（CSVは企業のSDG s に合致）
自治体ビジネス（公民連携事業）に適合、地域課題解決による営利の追求：警備システムの災害時活用
- 5 DX : デジタル（通信、AI等）技術を駆使した業務改革
業務の効率化（省人化）、機械警備の進化には必須、企画事業への適用（警備システムの災害時活用（IoT）、
セルフセキュリティ（スマホビジネス）、求人募集・広報等）

※共通テーマは、「持続可能性：サステナビリティ」、「何」を売るから「何故」売るかへ

当社の状況

① 警備請負いの大半が公共施設

強み 高い信頼性、社会的信用証明（対外ブランド） 公共の課題解決にアプローチしやすい。

→ 官民連携事業推進（SDGs、CSV）

社員、警備員における公共心醸成（対内ブランド） → 社内広報の充実

弱み 各社との共存を踏まえた応札 事業拡大の見込みは薄い。 → 法人等民間への開拓

② 人材確保に苦慮

強み 高齢者雇用の実績（少子高齢化への先駆、対応実績、ノウハウ）

シニア活用の社会的課題解決、人的リソース確保に有利 → 広報（SDGs）、

求人募集に活用（警備員の健康管理、職場との適合（SDGs）に配慮）

弱み 慢性的警備員不足、社員の低定着率 ルーチン業務、制度の定着が困難

→ 求人募集態勢（CSR,SDGs）、恒常的組織の確立（ESG：ガバナンス）

③ 機械警備の主力化

強み 警備業の趨勢（機械化、省人化）に適合 → 警備業の先進化を考慮

弱み 機械警備競合他社（大手）との競争 警備対応の量・質的に不利

→ 戦略（ランチェスター等）及びDX適用、地元貢献志向 新規企画事業

※近年の経営様式（持続可能性の追求：大手は常識、中小生き残りの鍵）に留意し、守り（信頼、ガバナンスの確保）つつ、攻め（SDGs、CSV等の活用）が重要と考え、更にブランド化、信頼性向上による営業、募集等へのアドバンテージを企図して、3件の新規企画（警備システムの災害時活用、セルフセキュリティによる新規開拓、求人募集・広報充実）について、DXを踏まえながら推進していきます。